

# 森戸川中流域の水生生物調査結果

調査日時：2004年9月1日 12:00～16:00  
 気温：32℃  
 調査地：神奈川県三浦郡葉山町森戸川長柄歩道橋より黄金橋まで  
 天候：晴れ  
 水温：23～29℃

森戸川の概要  
 河川延長 L=2000m 流域面積 6.97km<sup>2</sup> (降雨等が流入する面積)  
 神奈川県横須賀土木事務所河川砂防課より

調査者：武蔵工業大学 田中章研究室  
 久喜伸晃 小俣宏 新井聖司 伊藤喬徳  
 佐藤勇 佐藤勘才 鈴木浩晃 田中亨



写真1 オイカワ  
 関東以西の河川や湖沼に広く分布している。成魚はシリビレが大きく、産卵期の雄は、鮮やかな婚姻色が現れる(中坊 2000)。この固体の全長は13.2cmで、芳町橋付近にて捕獲した。



写真2 アブラハヤ  
 川の上流から中流に生息している。淀みや淵の水底近くに住み、底に住む生物やコケのほか、川に落ちた虫を食べる。東大山橋付近にて捕獲した。森戸川ではシマヨシノボリと並んで代表種である。(鈴木 1987)



写真3 シマドジョウ  
 体は細長く、3対6本のヒゲがある。体側の模様は地域的な変異が大きい。川の中、上流の砂泥底に生息し、比較的水のきれいな岸辺や水辺の植物の根周辺に見られる(中坊 2000)。芳町橋付近にて捕獲した。



写真4 ギンブナ  
 川の下流の淀みに多く生息し水生生物やコケ、動物プランクトンなどいろいろなものを食べる(Web1)。この個体は21cmで、中町橋付近にて捕獲した。



写真5 モクズガニ  
 はさみや足に長い毛が密生し、暗褐色をしている。夜行性のため、昼間はあまり見られない。日本全土に分布し、陸水系で成長し、秋に産卵のため海へ降りる(三宅 1982)。芳町橋付近にて捕獲した。



写真6 スジエビ  
 神奈川県川や湖、沼などのに広く分布している。基本的に淡水を好むが、稀に汽水域にも生息している(三宅 1982)。中村橋付近の水草や水辺の植物の周辺に多く見られた。芳町橋付近にて捕獲した。



写真7 ドジョウ  
 体全体が褐色を帯び、体背側に不明瞭な斑紋を持つ。水田や湿地、周辺の細流に生息し、主に平野部だが圃場整備されていない水田があれば、かなり上流域にも生息している。(鈴木 1987)



図 森戸川中流域調査範囲

写真8 中村橋付近  
 中村橋付近では川幅はかなり狭くなっており、川の瀬には多くの植物が生育していた。また、この植物群落の下には、たくさんの小さなエビ類やアブラハヤ、オイカワ、ヨシノボリ類などの稚魚を目認することができた。



写真9 図⑧～⑨地点  
 周辺の緑が多くなり、樹木も高木が多く見られるようになった。川辺には倒木やたくさんの木屑が見られた。これは、前日の台風による強風や大量の雨による影響であると考えられる。



写真10 図⑧地点  
 東大山橋を通り過ぎた図⑧地点には120cmくらいの堰があった。周りには魚道がないため、降雨により水量が多くなったとしても、このような高い堰は遡上する魚にとって大きな障害になるのではないかと。



表 森戸川中流域調査範囲で確認された生物

分類	和名	学名	科	確認された地点	確認された場所の特徴	在来種か外来種の判別	体長	流域性の有無
両生類	ツチガエル	<i>Rana rugosa</i>	アカガエル科	⑨	瀬	在来種	2.9cm	無
魚類	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	ウナギ科	⑥	目隠、岩の下	在来種	約1m	有
	オイカワ	<i>Zacco platypus</i>	コイ科	①②	堰堤、草の下、瀬	外来種	13.2cm	無
	アブラハヤ	<i>Phoxinus lagowskii steindachneri Sauvage</i>	コイ科	⑧	草の下	在来種	3.5cm	無
	ギンブナ	<i>Carassius auratus langsdorffii Cuvier and Valenciennes</i>	コイ科	②③④⑦	②木の下、草の下	在来種	3～21cm	無
	キンギョ	<i>Carassius auratus</i>	コイ科	⑤⑥	瀬	外来種	6.2cm	無
	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	ドジョウ科	①	流れの速さゆるやか、水温29.3℃、木の下、草の下	在来種	10.2cm	無
	シマドジョウ	<i>Cobitis biwae Jordan and Snyder</i>	ドジョウ科	②③	流れの速さゆるやか、水温29.3℃、木の下、草の下	在来種	7.0cm	無
	ヨシノボリ	<i>Rhinogobius brunneus</i>	ハゼ科	①	堰堤、草の下	在来種	4.0cm	有
	ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>	ハゼ科	①②⑥	堰堤	在来種	8.9cm	有
	甲殻類	スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>	テナガエビ科	⑤	木の下、草の下	在来種	2.8cm
アメリカザリガニ		<i>Procambarus clarkii</i>	アメリカザリガニ科	①③	流れの速さゆるやか、水温29.3℃、木の下	在来種	11.3cm	無
モクズガニ		<i>Eriocheir japonicus</i>	イワガニ科	③	瀬	在来種	7.2cm	有

注)表での流域性とは、生物の生活史上で川のつながりが必要としているものをいう。同定は(中坊 2000)、(三宅 1982)を使用。

## 考察

今回、森戸川の中流域調査をして判明したことは、前回の下流域調査とは川の様子や、川に生息している生物種に違いがあったことである。今回はオイカワ、アブラハヤ、ギンブナなど汽水域では見ることのできない生物を確認することができた。またシマヨシノボリ、ヌマチチブ、モクズガニなど、生活上で流域を必要とするものは、前回の下流域調査と同様のものが確認でき、川のつながりを実感することができた。

今回の調査の課題として、エビについて今回同定できない種があったので、同定する方法を検討し、調査漏れがないようにしたい。

## 引用文献

中坊徹次, 2000. 日本産魚類検索 全種の同定第二版, 東海大学出版会.  
 三宅貞祥, 1982. 原色日本大型甲殻類図鑑(Ⅰ), 保育社.  
 鈴木博, 1987. 逗子における川・溜池の動物 逗子市史, 別編Ⅰ, 自然編.  
 (Web1), 農村地域の水辺の生き物.  
[http://www.maff.go.jp/nouson/mizu\\_midori/frame/123f.html](http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/frame/123f.html) 2004/10/18.